

平成30年度 第4回京都市上下水道事業経営審議委員会議事録

日 時 平成31年3月19日（火） 午後3時～午後5時

場 所 京都市上下水道局本庁舎 大会議室

出席者（五十音順，敬称略）

1 委員

金井 美佐子 京都市地域女性連合会常任委員

川西 照代 市民公募委員

白井 皓大 市民公募委員

西村 文武 京都大学准教授（大学院工学研究科）

水谷 文俊 神戸大学教授（大学院経営学研究科）

村上 祐子 株式会社京都放送常勤監査役

山田 陽子 公認会計士・税理士

※神子委員及び兒島委員については，都合により欠席

2 京都市

京都市公営企業管理者上下水道局長，次長，技術長，
総務部長，総務部資産・拠点整備担当部長，総務部お客さまサービス推進室長，
経営戦略室長，技術監理室長，水道部長，下水道部長
事務局（経営戦略室）

次 第

1 開 会

- (1) 出席者確認
- (2) 進行の確認，会議の公開について

2 議 題

- (1) 平成31年度単年度計画の策定について
- (2) 経営評価の見直しについて

3 報 告

- (1) 平成30年度水に関する意識調査等について
- (2) 京都市上下水道局南部拠点整備事業の計画地に係る土壌汚染対策法に基づく区域指定等について
- (3) お客さま対応の一層の充実について
- (4) 琵琶湖疏水記念館のリニューアルオープン等について

4 閉 会

内 容

1 開会

(1) 出席者確認

(2) 進行の確認，会議の公開について

事 務 局： 議事及び資料の確認

水谷委員長： 本日の会議は公開とし，議事録については，後日公表することとする。

議事録は2名の委員の署名が必要ということなので，名簿順で，白井委員と西村委員にお願いしたい。

2 議 題

(1) 平成31年度単年度計画の策定について

事 務 局： 資料の説明（資料4-1及び4-2）

白 井 委 員： 資料4-1について，SDGsのロゴが説明なく出てくるが，SDGsを知っている人はよいと思うが，知らない人もいると思うので，資料のどこかに解説を記載した方がよいのではないか。

京 都 市： SDGsについては，京都市全体として進めている取組であり，市としての説明の仕方もあると思うのでそれを踏まえつつ，局としても分かりやすい記載になるよう工夫したい。

水谷委員長： 資料4-1のp10「取組による財政効果」において，職員定数の削減を「職員定数の適正化」と記載しており，職員を減らせば適正化できるというイメージが続いている。しかし，安心・安全な水を継承するためには，技術を継承していく必要があるが，そのためには相応な人員が必要になってくると思う。現行案では，職員定数を削減することが，適正化と見えるので，記載の仕方は考えた方がよいのではないか。

京 都 市： 当局では，これまで6期に渡って効率化を進め，職員定数を約1,900名から約1,200名まで削減するとともに，組織の見直しや，民間活力の導入などを行い，適正化を図ってきたためこういった表現としている。

山 田 委 員： 資料4-1のp10「取組による財政効果」において，単位が百万円となっているが，市民には百万円の単位は分かりにくいので，単位は億円にしてはどうか。p2について，使用者数が増加しているとの記載があるが，人口が減少している中で，使用者数が増加していることに違和感があるが，これはどういうことなのか。

京 都 市： 人口自体は増加していないが、一般住宅が減少しているが、マンションや集合住宅が増加しているため、使用者数（契約者数）が増加している。なお、一般用に比べて、事業用については、大きな増減はない。

白 井 委 員： 資料４－１の p8 も、各事業の予算額の単位がまちまちで見づらいように感じる。また、使用者数が減少しているとのことであるが、京都市は観光客数が増加していると思うが、それに伴う水需要の増加は見られないのか。

京 都 市： 観光客の増加に伴い、ホテル・旅館業の使用者数は増加しているが、使用者全体の４分の３を占める一般使用者が減少していることから、全体として水需要の増加は見られない。

西 村 委 員： 資料４－１の p17、視点①方針⑤「③国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成」における、上から３つ目の項目「IWA（国際水協会）会議・展示会参加研修（日本水道協会主催）等の国際会議への論文発表」について、海外での論文発表を想定しているのか。また、p19の視点③方針①「①将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上」とは所属が異なっているが、連携はどうなっているのか。

京 都 市： IWA（国際水協会）会議・展示会については、平成30年度は東京で開催され、本市からも論文発表を行った。今後も、国際会議等へ継続して参加していく予定であり、その旨を平成31年度計画に記載している。p17の方は、国際協力の観点からの人材育成、p19は全体的な人材育成について、記載しており、所属間で連携して人材育成を進めていく。

（２）経営評価の見直しについて

事 務 局： 資料の説明（資料５－１、５－２及び５－３）

川 西 委 員： 経営評価については、現行のものも含め、内容は素晴らしいと思うが、市民に読んでもらうことに結びつけなくては、市民の目に情報は届かない。経営評価については、これまでどおり取組を進めつつ、上下水道局が今、何に困っているのか、どういった事業を進めているのかなど、庁舎にパネルなどをつくってアピールしてみてもどうか。また、太秦庁舎の見学会や琵琶湖疏水記念のツアーなども考えられるのではないかと。経営情報については、市民しんぶんなどに記事の掲載もしていると思うので、市民に親しみやすい方法と経営評価の両輪で情報発信を進めてほしい。

京 都 市： 市民に事業や経営面を含めた実情を知っていただくため、市民しんぶんやSNSなどを活用して情報発信を行っているが、世代によって身近なツールも異なり、伝わりづらい部分もある。琵琶湖疏水記念館において、来年度から市民講座を行う予定なので、経営情報の発信も一緒にやっていければと考えている。

西村委員：資料5-3のp1において、「94億円」「9.8億円」など事業費が記載されているが、市民には伝わりづらいと思う。よく国債の額など、国民一人当たりいくらと示すことがあると思う。身近に感じられる表現の仕方があれば、検討していただければと思う。

京都市：御指摘のとおり、何億円といった単位は市民に伝わりづらいと思う。本市においても、水道料金・下水道使用料の使いみちについて、100円あたりの使いみちを示すなど、市民に分かりやすくなるよう工夫をしている。この部分についても、何かよい示し方がないか、検討してみたい。

山田委員：同じ部分について、数字はインパクトがあり、分かりやすいが、「貯留管による合流式下水道の改善対策」など説明の部分が分かりにくいので、この部分をもっと分かりやすくして、上下水道局はこういうことをしているとっと身近な言葉で記載してもらえばと思う。

京都市：現在、経営評価冊子全体を見直しているところであり、民間企業で作成している統合報告書などを参考にしながら、見た目のインパクトも重視しているため、現時点案では分かりにくい部分もあると思う。本日いただいた御意見を参考にして、案を見直していきたい。

白井委員：市民向けの広報という観点から考えると、作成している冊子が多すぎるように思う。10年、5年、1年と計画だけでも複数あり、さらに評価までとなると、冊子が多すぎて、どれを見ればよいか市民は混乱するのではないか。「これを見れば上下水道局の今が分かる」というものが一つあればよいのではないか。

京都市：御指摘いただいたことが、まさに今回の経営評価の見直しの狙いであると考えている。経営評価冊子を見れば、年度の計画や決算など全体が分かるものにしていきたいと考えている。

村上委員：資料5-3のp2の視点②「インターネット等を活用した新たなサービスの展開」について、水道使用履歴照会サービスやLINE Pay請求書支払いなどを開始しているにもかかわらず、昨年度からの増加目標は500件となっているが、広報活動などはどういったことを行ったのか。

京都市：水道使用履歴照会サービス「みずみるネット」については、水道料金のお知らせ裏面や検針時に配布するリーフレットなどで広報を行い、想定以上の御利用をいただいている。LINE Payについては、市民しんぶんなどで広報を行ったが、現時点ではあまり利用は多くない。

西村委員： 市民に分かりやすくという視点で言えば、ボリュームも現行の冊子より少なくなり、見やすくなったのではないかと感じるが、現行冊子から削減された情報については、どこで確認することができるのか。

京都市： 現行の冊子に掲載している内容で、見直し後の冊子（資料5-3）に掲載していない内容については、p40以降に付属資料として掲載する予定である。市全体として、情報公開を進めているので、これまで公開していた情報量から減ることがないようにしたい。

3 報告

(1) 平成30年度水に関する意識調査等について

事務局： 資料の説明（資料6-1, 6-2, 6-3及び経営情報の発信に係る資料一式）

川西委員： 災害時の備蓄状況に関連して、備蓄率の向上のため、町内会や学校などでまとめて備蓄してはどうか。また、疏水物語をコンビニなどで販売することで、多少の収益にはならないのか、10年間保存可能であるということはPRポイントになるのではないかと。

京都市： 疏水物語は、災害時の備蓄と事業PRを目的として製造しており、災害時の備蓄用としては、本市の行財政局がおよそ58万本の備蓄を行っている。1本あたり100円で販売しているが、原価は90数円であり、販売することでもうけが出るというものではない。販売チャネルを増やしてどうかという御意見はいただくが、コスト面を考えると難しいのが実情である。

山田委員： 「経営情報の発信に係る資料一式」について、広報活動に関して努力していると感じる。検針時のお知らせリーフレットを家で見たが、読みやすかったので、市民も見ているのではないかと思う。

山田委員： 水に関する意識調査について、回収率もよく、よい印象の結果であると感じた。ただし、回答者は高齢者が多く、回答してくれている時点で、上下水道に関心があると思う。プラン目標を越えている指標もあるようだが、答えてくれている人はそれだけ意識が高い、備蓄率で言えば、答えてくれていない人は備蓄していないという考えで啓発を進めて欲しい。

京都市： 好意的な集団の回答であるということは認識しなくてはいけないと考えている。備蓄率が高まっていることについては、当年度は災害が多発して、他都市で水に困ることが多かったことも影響していると思う。目標を越えたことで満足するのではなく、数値を維持できるよう努力していきたい。

川西委員： 京都在住の外国人の意見も聞きたいと感じる。国際交流センターなどにプリアンケートなどを設置してみてもどうか。

京 都 市： 琵琶湖疏水記念館において、リニューアルに伴い、展示も多言語対応とした。
外国人の来訪者も一定数あると思うので、細かいアンケートは難しいが、来館者に対し、簡単なアンケートを実施したいと考えている。

(2) 京都市上下水道局南部拠点整備事業の計画地に係る土壌汚染対策法に基づく区域指定等
について

事 務 局： 資料の説明（資料7）
（意見等なし）

(3) お客さま対応の一層の充実について

事 務 局： 資料の説明（資料8）

白 井 委 員： 外国人のお客さまへの対応は、どのように行っているのか教えてほしい。

京 都 市： 外国人のお客さまへの対応については、ホームページで多言語対応の様式を
掲載したり、営業所において指さしで説明できるシートで対応したりしている。
今後も幅広いお客さまに対応できるよう、工夫していきたい。

(4) 琵琶湖疏水記念館のリニューアルオープン等について

事 務 局： 資料の説明（資料9）

金 井 委 員： 3月7日のリニューアル式典に参加させてもらった。琵琶湖疏水記念館は2
年前に一度いったが、導線が非常によくなっており、また行きたい気持ちにな
った。今後イベントなどがあれば、女性会としても積極的に参加したいので、
情報を提供してほしい。

京 都 市： フィールドミュージアムとして、周辺も含め、お越しただいて、見ていた
だきやすい記念館にリニューアルできたのではないかと考えている。今後も適
宜、情報提供してまいりたい。

村 上 委 員： 同じく式典に参加させていただいた。実際に建物の中に入って、導線もよ
く、本を読むより、実際に周辺も含め歩いてみるといいと感じたが、疏水ウォ
ークなどの企画は行わないのか。

京 都 市： 疏水ウォークについては、外部団体主催で、平成29年度に実施したが、当
該団体の都合もあり、当年度は実施していない。今後、こういった取組を進め
るのかについては、検討していきたい。

4 閉 会

水谷委員長： 委員の任期としては3月末までだが、平成30年度の京都市上下水道事業経営審議委員会については、今回が最終となる。この間の委員の皆さまによる審議への御協力に改めて感謝申し上げたい。あらゆる立場から意見が出て、非常によかったと考えている。また、資料も多岐にわたっており、経営評価なども洗練されていったと思う。京都市は国際的な大都市でありながら、事業をよりよくしていこうと考えており、素晴らしいと思う。日本、そして世界に向けた上下水道にしてもらえればと思う。

山添管理者： 平成29年度からの二年間で、全8回にわたって、水谷委員長の下、活発な御議論を頂いたことに感謝申し上げます。上下水道局の経営に関わる様々な議題に対し、専門的な御指摘だけでなく、様々な観点からの貴重な意見をいただきました。経営ビジョン・中期経営プランの策定にあたっては、本委員会での御議論に加え、経営ビジョン策定検討部会に、神子副委員長、西村委員にも御参画いただき、貴重な御意見を頂くことができました。また、当局の事業について、市民の皆さまに対し、適切に伝える方法等についても御教示いただきました。上下水道事業は地味な事業ではあるが、よりよい上下水道としていくため、職員一同努力してまいります。